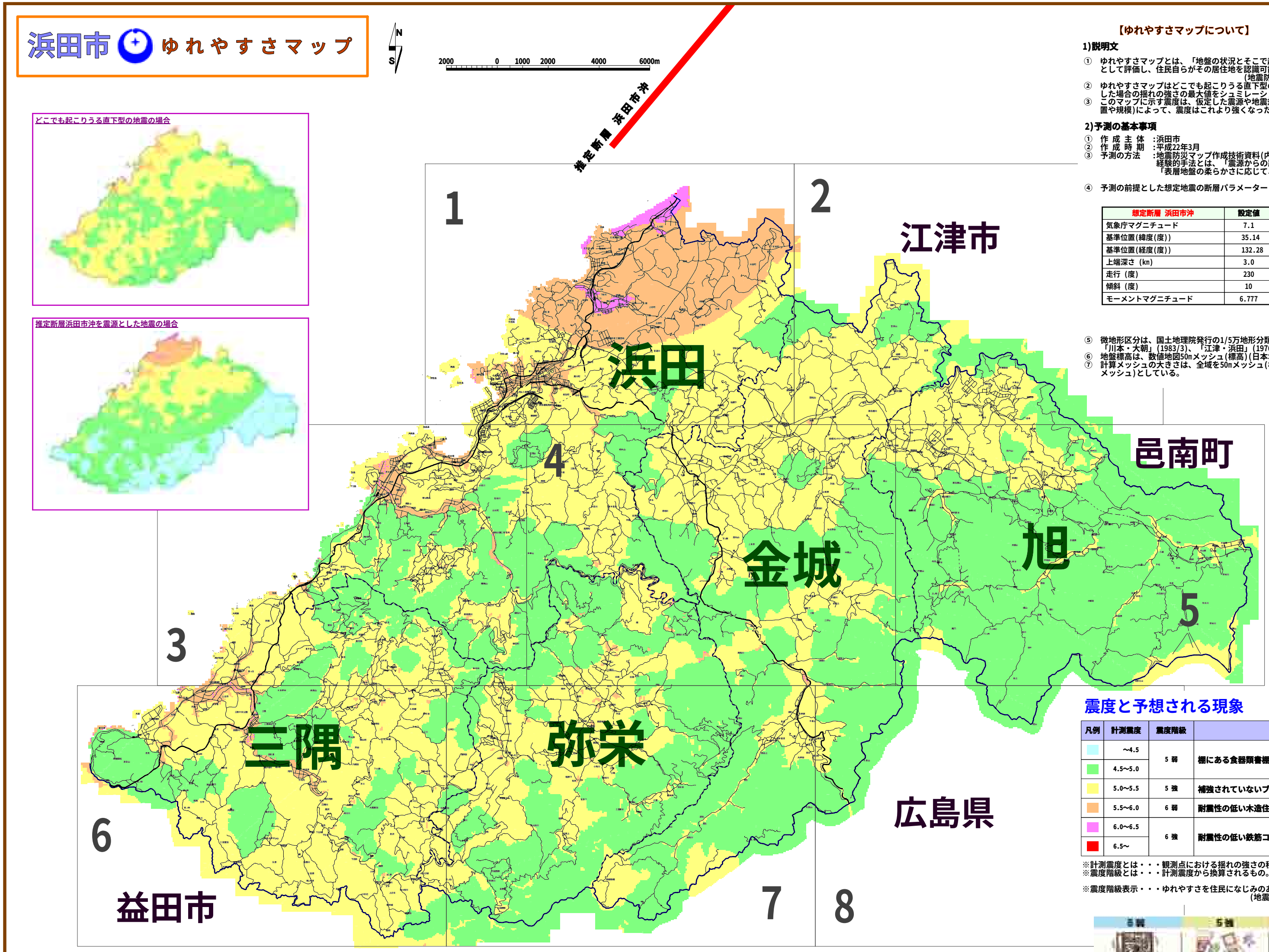
浜田市 ゆれやすさマップ



どこでも起こりうる直下型の地震の場合

推定断層浜田市沖を震源とした地震の場合

【ゆれやすさマップについて】

1)説明文

① ゆれやすさマップとは、「地盤の状況とそこで起こりうる地震の両面から地域のゆれやすさを震度として評価し、住民自らがその居住地を認識可能な縮尺で詳細に表現したもの」です。
(地震防災マップ作成技術資料(内閣府 平成17年3月9より))

② ゆれやすさマップはどこでも起こりうる直下型の地震と想定断層浜田市沖を震源とする地震が発生した場合の揺れの強さの最大値をシュミレーションにより予測したものです。

③ このマップに示す震度は、仮定した震源や地震規模に基づくものであるため地震の発生の仕方(位置や規模)によって、震度はこれより強くなったり弱くなったりすることがあります。

2)予測の基本事項

① 作成主体 :浜田市
② 作成時期 :平成22年3月
③ 予測の方法 :地震防災マップ作成技術資料(内閣府 平成17年3月)による(経験的手法)
経験的手法とは、「震源からの距離に応じて地震の揺れの強さを推定する手法」と「表層地盤の柔らかさに応じて、地震動がどの程度増幅するかを推定する手法」。

④ 予測の前提とした想定地震の断層パラメーター

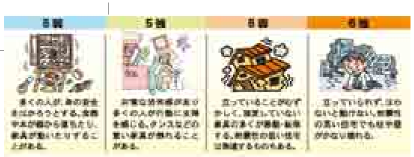
想定断層 浜田市沖	設定値
気象庁マグニチュード	7.1
基準位置(緯度(度))	35.14
基準位置(経度(度))	132.28
上端深さ (㎞)	3.0
走行 (度)	230
傾斜 (度)	10
モーメントマグニチュード	6.777

どこでも起こりうる直下型の地震	設定値
気象庁マグニチュード	6.9
基準位置(緯度(度))	-
基準位置(経度(度))	-
上端深さ (㎞)	10.0
走行 (度)	-
傾斜 (度)	90
モーメントマグニチュード	6.601

⑤ 微地形区分は、国土地理院発行の1/5万地形分類図「木都賀」(1984/3)、「益田・飯浦」(1978/3)「川本・大朝」(1983/3)、「江津・浜田」(1976/3)を用いている。
⑥ 地盤標高は、数値地図50㎜メッシュ(標高)(日本地図センター発行)を用いている。
⑦ 計算メッシュの大きさは、全域を50㎜メッシュ(標準地域メッシュ第3次地域区画を20×20分割したメッシュ)としている。

震度と予想される現象

凡例	計測震度	震度階級	状　　　況
🟦	～4.5	5 弱	棚にある食器類書棚の本が落ちる事がある。
🟩	4.5～5.0		
🟨	5.0～5.5	5 強	補強されていないブロック塀の多くが崩れる。
🟧	5.5～6.0	6 弱	耐震性の低い木造住宅では、倒壊するものがある。
🟪	6.0～6.5	6 強	耐震性の低い鉄筋コンクリート構造物では、倒壊するものがある。
🟥	6.5～		

※計測震度とは・・・観測点における揺れの強さの程度を数値化したもの。
※震度階級とは・・・計測震度から換算されるもの。地震情報などにより発表される際に使用されます。
(気象庁ホームページより)
※震度階級表示・・・ゆれやすさを住民になじみのある震度階で表示しています。
(地震防災マップ作成のすすめ(内閣府 平成17年3月より))